

学校教育目標 「知・徳・体の調和がとれ たくましく 生きる力をもつ 子供の育成」

創立150周年を迎えた 地域とともにある学校

令和5年12月14日 第10号

芦屋町立芦屋小学校

文責：勝木 久美

住所：芦屋町白浜町3786

電話：093-223-0059

全校児童数 180名



芦小だより

3つのあ「あいさつ・あんぜん・ありがとう」

わたしたちは多くの人とつながって生きている

人は人として生まれると、基本的人権が保障されます。『基本的人権』とは『人が人として幸せに生きるための権利(約束されたもの)』で、世界中の人々に共通した一人一人に平等に与えられた権利です。基本的人権は、大切にしなければなりません。

〈芦屋小学校のみなさんへ〉



左の写真は美しい虹の写真です。

赤・橙・黄・緑・青・藍・紫の七色の虹はいつ見ても美しいのですが、なぜこんなに美しいのでしょうか？

虹は、それぞれの色が隣の色を邪魔することなくお互いの色を大切に、そして思いやりながら自分の色を出して、精一杯輝いているからです。人間も同じです。皆さんも一人一人自分の色つまり個性を持っています。そして、その個性をお互いに尊重しながら生活しています。

芦屋小の児童は180人、同じ顔や個性を持つ人はいません。世界の人口は76億人、同じ顔や個性を持つ人はいません。あなたは世界にたった一人の大切な人です。自分も大切、同じように仲間も大切です。皆さんが、自分の命と周りの人の命を大切にできる人へと成長してほしいと願っています。いつでも、どこでも想像力を働かせて、相手の立場に立って考えること。そして、思いやりを忘れずに仲間を大切にしましょう。仲間を大切にできる人は自分も大切にできる人です。芦屋小のだれ一人として、悲しい思いをすることがないように、そして「みんなといると楽しい。」と、だれもが言えるように優しさ溢れる芦屋小にしていきましょう。

芦屋小学校 人権週間 12月4日(月)~22日(金)

「思いやり」から「思い合い(愛)」へ

道徳の時間や学活の時間を活用し、自分自身を見つめ直したり、悩んだり困っている人に気づくことができる授業を日々展開しています。人権について考えて生活するのは、この期間だけでなく、1年中であり、毎日です。12月の全校朝会では、各学年から出された人権への取り組みをもとに、今までよりもっと自分を大切に、もっと周りの人のことを考え、大切にできるようになってくれることを願っています。



「だれもが」「安心して」「豊かに」
全校朝会にて

子どものWell-being 『読書』



今回は、「読書」を取り上げます。

『なあんだ、昔から「読書」は大事だと言われてきた あれかあ』と思われるかもしれませんが、今現在、多くの脳科学の研究者が、「読書」の重要性を示唆しています。なぜ「読書」が重要なのか、その理由が脳科学の分野で解明されています。「読書」をするかしないかで、その後の人生を大きく左右するという、そして生活が豊かになり幸せに生きられるという、その内容は以下のとおりです。9歳の誕生日から12歳の誕生日までの3年間を「脳のゴールデンエイジ」と言って、夜の脳神経回路の増え方が特別に多い時期となるそうです。知識や知見やセンスがどんどん作られる3年間と言われています。この3年間以外でも、「読書」は大切なのですが、特にこの3年間は極めて重要となります。人は日常生活をしていて経験できること（直接体験）には限りがあります。物語にでてくるような経験を実際にできるわけではないので、読書はその経験を担保してくれるわけです。つまり、読書とは疑似体験です。物語の主人公が裏切られたり、踏みにじられたりしながらも、真実を信じて、最後は仲間と一緒に成功を手にする、というストーリーになっています。苦悩して乗り越えていく過程を疑似体験することで、知識やセンスが身につけていきます。子どもたちは、いずれ社会に出て、時には悪意に触れ、いじわるに触れ、理不尽に触れていくことになるわけですが、それを「読書」という形で補完しておく、うまく対処できるようになり、「幸福」と感じるが多くなります。映画を観たり、アニメを視聴したりすることも、脳にとって良いのですが、中でも文字情報を自分の想像力で脳の中で動画にしていくという「読書」という行為は、脳の神経信号が最も活性化されることとなります。文字情報を入れて、それを自分で五感の感覚になぞらえていく作業は、大脳から小脳までのあらゆるところが使われることになり、脳の奥の方まで神経信号を使うこととなります。また、コミック（マンガ本）については、コマとコマの間を脳が繋げることから、マンガを読むこともおすすめです。

では、「読書」は物語などストーリーのある本でなければならないのか、というそうではなく、図鑑や科学絵本でもまったく問題はありません。科学的な世界観や自分の生活と違う世界観を手に入れるのも、将来、問題解決の時に役立ちます。物事の不思議には、必ずストーリーが入っているので、やがて、自分が人間関係に悩んだときに、そこで作られたセンスなどが必ず生きてきます。物語に限らず読みたいと思う本を読むことが大切です。さらに、9歳からのゴールデンエイジに「読書」をするには、それまでに「読書」を楽しむ習慣をつけなければいけません。すべては「絵本」から始まっています。「絵本」に出会って本に触れることに慣れることからのスタートです。

芦屋小では、「読書活動」に力点を置くため、図書司書を配置しています。また、長年にわたって、読書ボランティアの皆様朝の読み聞かせをしていただいております。さらに、公的予算から、図書室の新刊図書を購入しています。読書環境を子どもに与えるには、何より大人が（親や教師が）楽しそうに読書をしている姿を見せることです。「読書」はとても楽しいということを見せることで、自然と「読書好き」な子どもになります。

今からでも決して遅くはありません。「年中読書の秋」として読書をしてみませんか。

